

策定の趣旨（平成12年策定時）

我孫子市は、手賀沼と利根川の豊かな水系に抱かれた環境の中で、人々のくらしが営まれ、歴史を刻んできたまちです。

この恵まれた環境と首都圏30キロメートル圏という地理的条件から急激な都市化がすすみ、市制が施行された1970年（昭和45年）当時5万人弱だった人口も現在は約13万人となっています。

そして、この多くの市民が地域での出会いや交流をとおして、さまざまな場面で活躍しているまちです。

こうしたまちの歩みの中、1985年（昭和60年）に2006年（平成18年）度を目標とする前基本構想を定めました。

そのねらいは、急激な都市化や人口増加が1980年代にようやくおさまりをみせた中で、新しいまちづくりの方向をしっかりと見定めた行財政運営の指針を明らかにすることにありました。

この前構想には、市民のくらしを視点に、手賀沼を中心とした環境問題への取り組みや、まちづくりへの市民の主体的な関わりなど、時代を先取りした優れた面が多くあります。

しかし、17万人という人口想定に代表されるように、右肩上がりの経済成長を前提にした計画体系の形成に主眼を置いたため、現実的な施策実現に至らなかった面があることも否めないものがあります。

さらに、今日の地域社会は、経済状況の変化や、急速な少子高齢社会への移行、国際化・情報化の進展、女性の社会参加の拡大などの社会構造の変化、さらに地球規模での環境問題の顕在化など、これまでにない状況に直面しています。

また、地方分権の進展により、自治体の自立を前提とした、市民と市の新たな関係づくりに向けた対応が迫られています。

一方、市民のライフスタイルは多様化し、さまざまな活動が活発に展開される中で、公共サービスの担い手となる新たなまちづくりへの自主的な取り組みも始まっています。

私たちは、前構想が持つ優れた面を継承しながらも、こうした時代の胎動をしっかりと受けとめ、新しい地域社会を生み出す力に変え、独創的な魅力あるまちを市民と市の協働で築いていかなければなりません。

この基本構想は、21世紀を展望するこの時期に、我孫子市がめざす将来のまちの姿を明らかにし、その実現に向けた行財政運営の目標と基本的方向を示すため策定したものです。